

FANTIC RACING

2025 年 9 月 10 日

ファンティック・レーシング・ニュース

FANTIC のケビン=クリスティーノ、
チーム・イタリアをリードしてシックスデイズでのジュニアトロフィー獲得に導く



エンデューロのオリンピックと言われるシックスデイズ。第 99 回を迎えたイタリア・ベルガモで開催されたこの大会で、ファンティックが輝きを見せた。ケビン＝クリスティーノがチームをジュニア・トロフィー獲得に大きな役割を果たしたのだ。アルビン＝ノルビンとアクセル＝セムはスウェーデンをワールドトロフィーの 2 位に押し上げる原動力となった。マッテオ＝パヴォーニと彼の XE300 はクラブチームの順位を席巻した。

第 99 回目となった ISDE（国際 6 日間エンデューロ）は世界でも最も歴史的なオフロードレースイベントだ。2025 年は北イタリア・ベルガモで戦われ、世界のエンデューロ人から注目を集めるイベントとなった。

8 月 24 日（日）にキックオフしたこのイベント。6 日間のレースは 29 日の金曜日までと長く、ファイナルクロステストは MXE.45 サーキットで開催され、地元の本モトクラブ・ベルガモがこの大会を支えていく。ここわずか数カ月でクラブとチームはこのタフなレースのテストやルートをデザインし、この地域の主要な谷～キャバリナ、ブレンバーナ、セリアーナの 3 つの渓谷を縦横無尽に走り回るよう作り上げた。世界 33 か国から合計 700 名のライダーが集い、あらゆるルートにはファンが詰めかけて観戦し、パドックには人が溢れたのである。スペシャルテストにはとりわけ多くのファンが押し寄せ、その声援、熱量と情熱の激しさはこの先も長く伝え残されることだろう。

Day1 と Day2 はキャバリナ渓谷を中心に戦われた。ケビン＝クリスティーノはすぐにそのタレントを発揮した。ひどい雨のおかげで極めてスリッピーでまたマディーだった初日、また続く 2 日目は乾いて硬い路面のスペシャルテストが行く手を阻む。だがミナレッリ製燃料噴射エンジンを積むファンティック X E 3 0 0 を駆る若き 21 歳のイタリア人は、チームイタリアをジュニア・トロフィーの頂点に導くべく最初から全力で挑んだのだ。

去年の I S D E でスウェーデンをジュニアトロフィーに導いた同じファンティックのアルビン＝ノルビンとアクセル＝セムは今年はワールドトロフィーに挑んでいる。慎重にスタートを切りながらも二人のファンティック・ライダーは手堅く順位を上げ、ノルビンが 2 日目を総合 7 位で終えると、直後の 8 位にはケビン＝クリスティーノが滑り込んだ。

D a y 3、組まれたルートはセリアーナ渓谷からクルソーネ地域へと広がる美しいエリアを駆け抜ける。第 5 スペシャル・テストはキャバーリと名付けられた。このスペシャル。トラックには多くに観客が詰めかけて応援する。ノルビンは再び手堅く走って 8 位を手中に収め、クリスティーノはジュニアの中では 2 番手に入り、大きなミスを犯すことなく順調にレースを消化してきている。

D a y 4 では再びセリアーナ渓谷からボルレッツァ渓谷へと舞台が広がっていく。イセオ湖を背景にした美しい風景が自慢のボッシーコ・スペシャル・テストまでの合計 7 つのスペシャルテストを終えて、ファンティックのライダー、ノルビンは総合 5 位に食い込んできた。23 歳の若きスウェーデン・チームメンバーは、ファンティック X E F 3 1 0 で自身のベストを塗り替えるスピードで走り、チームをこの日までのトロフィー順位で 2 位まで押し上げる原動力となったのだ。

エンデューロの実質的な最終日である D a y 5 は激しい雨の影響を受け、オーガナイザーはルート変更の選択を余儀なくされた。ファンティック・ライダーたちはしかし、この厳しい状況でも準備良く走り、グランド・フィナーレへと向かったのである。ファンティックのトップは総合 10 位に入るケビン＝クリスティーノだ。

メダル授与はファイナルクロスの会場でもあるモトクロス場、コボにあるM E X. 4 5で行われた。ファンティック・ライダーたちはここでチェッカーフラッグを受け、その栄誉に浴したのである。ジュニアクラスでは、ケビン＝クリスティーノがチーム・イタリアを先頭でけん引し、ファンティックX E 3 0 0とともに全力でまたすべての能力を振り絞っての走りを魅せたのだ。個人成績でもクリスティーノは力強い結果を残し、E 3クラスでは総合2位、ジュニアクラスでも総合2位を受賞した。ワールドトロフィーでは、アクセル＝セムとアルビン＝ノルビンの二人のファンティックライダーがチームをけん引し、母国スウェーデンをホスト国に続く総合2位に導いた。ノルビンは個人成績でも総合7位、E 2では3位と見事な成績を獲得したのである。

クラブチームでは、今年のシックスデイズの中心となったのはファンティックのマッテオ＝パヴォーニであった。ファクトリー・サポートのチーム・スペシアで走るパヴォーニは最初の4日間、トップタイムを記録し続けたのだ。結果としてクラブチーム・アワードでは彼とそのF a n t i c X E 3 0 0は個人成績でのトップに輝いたのである。

ファンティック・レーシングのエンデューロとモトクロスのスーパーバイザーたちもまた話題の中心となった。アレックス＝サルビーニとダビデ＝グアルネリが再びマシンにまたがったのである。マッテオ＝ゾッパスと組んでチームを結成した彼らは6日間を走り切り、地元の観衆を魅了したのだ。彼らが見せた情熱と、衰えることのない走りはマシンの上でも、マシンを降りてからも、真のライダーとして人々を夢中にさせたのである。

情熱、献身と深い経験がファンティックのレースサービスエリアでも存分に発揮された。アントニオ＝スペシアとチーム・テクニシャンたちは、各国から迎え入れた合計16名のライダーを全員、この99回目のシックスデイズのゴールまで導いたのである。



ケビン＝クリスティーノ：僕自身はもちろん、チームにとっても素晴らしいシックスデイズだった。ライディング中、いつもマシン＝ファンティックのフィーリングは最高で、おまけに素晴らしい声援が初日から最後まで途切れることが無かったおかげで本当に集中してレースを進めることができたからね。僕たちはモチベーションも高く、どうしても勝ちたかったんだ。だからイタリア・チームがここイタリアで多くの観衆の前で優勝を勝ち取ることができるってのは本当に最高の体験だったよ。この忘れ難い経験を得られるなんて何物にも代えがたいね。これからはエンデューロGPに集中していくよ。そう、もう一つのタイトルをウチに持ち帰るためにもね。

アルビン＝ノルビン：やっと終わったね。でも最高の1週間だった。Day 1でのスターティングポジションの悪さから、最初はちょっと慎重だったかもしれない。でもほとんどのテストでトップ10をキープできたし、個人的にはベストとなる5位に入ることができた日もあったからね。マシンはいつも調子よく走ってくれて、全体で見てもいい一週間だったといえるよね。チーム・スウェーデンが総合2位に入ったことも素晴らしいよ。いやホント、母国にワールドトロフィーを持ち帰れるってのは、しばらく離れていたことの価値を確かめられるような気がするね。この調子で、続くエンデューロGPもいい感じで走らせてもらおうよ。

アクセル＝セム：いい1週間だったし、何よりチームが2位に入ったのは最高にクールなことだね。スウェーデンはワールドトロフィーの表彰台から遠ざかってだいぶたつから、これは本当に素晴らしいとっていいはずだよ。イタリアンたちが自国で最高のパフォーマンスを発揮し続けられる中では、これが僕らにとって最高の結果とっていいだろうね。個人的には成績は今一つ振るわなかったけど、まだこの先もレースは続くからそれを楽しみにしているよ。

